W
学位論文
2722
2

早稲田大学審査学位論文(博士)の要旨
2722-2

博士（人間科学）学位論文　概要書

ファッション化社会論

（　大衆社会の生活文化的側面から　）

1999年1月

早稲田大学大学院人間科学研究科

柳　　洋　　子

ファッション化社会論－大衆社会の生活文化的側面から－

本稿は衣生活が、単なる人間の心理や行動によるものではなく、集団・社会・国家の構造や状況との相関を有することを明らかにすることを目的としたものである。

たとえば、明治時代の近代化＝西欧化（ Modernization=Westernization ）は、生活文化的側面からは、「洋風化」であり、とくに衣生活では洋服化であった。しかし、和服から洋服への移行は1950年代までの長い経過が必要であった。また、1960年代以降は衣生活＝洋服化という状況が一般化した。洋服化は食・住生活の洋風化の促進要素となり、社会全体が「ﾌｧｯｼｮﾝ化社会」になったと考えられる。

以上のような前提をふまえて、つぎのような拙論構成で論述展開を行った。

一章では、衣生活の経過過程を粗原料－素材－縫製－着装－流通について論述した。和服から洋服への移行が粗原料－素材過程（殖産興業策）に国家規模で重点が置かれたという明治期の実情のために緩慢であったことを明らかにした。

二章では、洋服そのものがどのような社会史を有するかを、洋服としての Pattern の確立がなされ織物工場の台頭を惹起し、さらに Style の確立という経過を中心に明らかにした。洋服は Style 構造によって成り立つ衣服である。Style は粗原料－素材－Design －縫製によって変化可能である。粗原料自体も天然・自然と化学・合成技術によって、「風合」という Style が異なる。素材も Design も縫製も同じように Style に可変という因子がある。その Style は社会的状況が創出すると考えられる。Fashion とは、事物の Style の変化の社会的受容が表面化する社会現象である。その典型が直観的承認性という生活財の「洋服」に顕著に見られということを明らかにした。

三章は、一・二章の具現である先駆的理論を抄述することによって、拙論の不足を補い、あるいは背景を明らかにした章である。前半は「洋服」が社会的にどう捉えられているかということに焦点のある理論を、後半では「流行」という社会現象を構築している理論を抄述した。以上をふまえて総論として、拙論であるが、日本のばあいは、制服社会から制服的流行社会－流行化社会－ﾌｧｯｼｮﾝ化社会へという洋服化過程があったという論述を展開した。つまり、明治時代に選良による洋服化の Orientation があり、大正時代には、職場への Identity としての洋服化があった。この時点で一般には、関東大震災による和服の非合理性の検証と学校規模での洋裁教育も緒について、洋服化が進展しはじめたので

ある。昭和時代には、戦争国家への国民的規模の Identity として、国民服・標準服・生徒服の規定があり、とくに国民服は「勅令」であったのである（明治期にも勅語で洋服が正服となった）。したがって、明治から太平洋戦争敗戦までは「制服社会」であった。

ＧＨＱ占領期になると、生活文化は Americanization　され、洋服化はその表象として急速進展する。しかし、繊維も生産過程で原料不足・労働力不足の域を脱しえない状態であった。1950年代の朝鮮戦争特需景気は、木綿の内需を可能にし、一方では軽工業としての Sewing Machine が輸出超過で内需に回り、「家庭洋裁時代」となる。1960年代の「合成技術」は生活文化の Style　化を可能にした。とりわけ「合成繊維」は、繊維生産技術が先行し、家庭洋裁を駆逐し、企業縫製時代を画した。大量生産－大量流通－大量販売－大量消費という構図の確立があり、以降「洋服」は ﾌｧｯｼｮﾝ 化社会の中核となった。

食も住も娯楽までもが「洋服の人間」を前提に企画され、他の生活用具、社会環境も構造化されつつあるのが現状である。そのような社会状況を「 ﾌｧｯｼｮﾝ 化社会」と提示したのである。

結論では、本稿の前提・Fashion とMass societyを生活文化という概念の投入で論述したこと・論述過程で省略したことなどを網羅した。

結論図と資料で、これまでの論述を図示し、1980年代以降は Dress Fashion　という単発なものではなく、Clothing Fashion　というようにあらゆる衣分野を網羅して展開されるという結論図になった。

資料　A は 1960 年代～1980年代以降の「生活文化」の図示。資料B は 1960 年代の衣生活項目。資料　C は制服（自衛官 C1-C8 ）・Uniform(観光・案内・営業・事務系 C6-C9 ）についての服装と職種への Identity 意識。資料 D　は洋服化過程の実像 D4-16。とりわけ「Modernization 」「Americanization 」を明示 D1-D3。

以上の構成で結論図と資料を本論内の不足を補う意図で加えた。